

仙台大学 広報室

# Monthly Report

## 2013世界体操競技選手権「あん馬」金メダリスト OB亀山耕平選手が来校



金メダルの亀山耕平選手を囲む大学関係者＝仙台大学

11月7日（木）、10月にベルギー・アントワープで開催された「2013世界体操競技選手権」種目別の「あん馬」で、日本人選手としては10年ぶり2回目の金メダルを獲得したOB亀山耕平選手（徳洲会体操クラブ／平成22年体育学科卒一埼玉栄高校出）が来校しました。本学からの世界選手権での個人種目の金メダリスト輩出は初めての快挙。（団体種目では、2013世界柔道団体戦＜女子＞でOG田中美衣選手（了徳寺学園職／平成22年体育学科卒一京都成安高校出）が金メダルを獲得）

仙台大学の正門玄関前では、亀山選手の功績を称え教職員及び学生ら約300名が盛大な歓声と拍手で歓迎。本学体操競技部の橘あすかさん（運動栄養学科3年一新潟・長岡大手高校出）から花束を贈呈しました。その後、亀山選手は、朴澤学長へ表敬訪問を行ないました。表敬訪問には、キナー ト・阿部芳吉・若井の3副学長、体操競技部の高成田部長・山口副部長・鈴木良太監督、鈴木省三教授（仙台大学同窓会会長）も同席。

亀山選手は「たくさんの応援を頂き、有難うございました。大学時代の練習があったからこそ、金メダル獲得につながったと思います。今後も精進を重ね、3年後のリオデジャネイロオリンピック出場を目指します」と力強く挨拶し、朴澤学長は「今回の快挙は本人の努力の賜物であり、後輩・仙台大学関係者にとって大きな励みになることはもちろん、東日本大震災の被災地に対しても喜びと希望を与えた。体育系大学で学んだ経験をもとに、その機能を活用した代表選手として、後に続く学生の模範となしてほしい。リオデジャネイロ五輪出場とメダル獲得に向けてなお一層の精進を期待する」と労いと激励の言葉を述べました。

### < 目 次 >

2013世界体操競技選手権「あん馬」 金メダリストOB亀山耕平選手が来校	1
スポーツシンポジウム2013を開催	2
ベトナム・ホーチミン市体育大学と 国際交流会議を開催	3
吉本興業と日本レクリエーション協 会、仙台大学がニュースポーツ「ス ポーツテンカ」を共同開発	3
仙台大学と青海省体育科学研究所 との日中共同研究	4
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま  
したら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

恩師らとの歓談後、亀山選手から大学に対しサイン入り色紙を朴澤学長に、後輩の体操競技部員へはメッセージ入りサイン色紙を鈴木良太監督に手渡し、終始和やかな雰囲気での表敬訪問となりました。

その後、亀山選手は、自分が練習を重ねた体操競技場で待ち受けた体操競技部部員たちと交流を図り、笑顔で「あん馬」のコツをアドバイスしていました。

リオデジャネイロ五輪で、あん馬と団体の2種目の金メダルを目指すOB亀山耕平選手へ温かいご声援をよろしくお願い致します。



後輩たちに「あん馬」のコツを指導する亀山選手  
=仙台大学体操場

## スポーツシンポジウム2013を開催



基調講演する為末大氏  
=せんだいメディアテーク

平成25年11月11日（月）、せんだいメディアテークにおいて仙台大学、仙台市、河北新報社の主催で、今年で9回目となるスポーツシンポジウムを開催し、約250名の方々にご来場いただきました。

第一部の基調講演には、世界陸上400mハードル銅メダリストでシドニー・アテネ・北京とオリンピック連続出場の為末 大氏による「スポーツの可能性」と題した講演が行われ、これまでの競技生活において為末氏が得たものなどが紹介されました。

その一つに自分を客観的に見つめること（control my self）を挙げ、常にあらゆる場面を想定した「考えるトレーニング」を行ってきたことなどが話されました。また、片足義足のパラリンピアン「左足を失ったのか。右足が残ったのか。私は後者を希望と呼ぶ。」という言葉が紹介され、為末氏の競技を通じた人生観とともに、全ての人に希望を与えるスポーツの持つ可能性について考えさせられる講演となりました。

第二部では「子どもの体力低下について考える」をテーマに公益財団法人日本体育協会スポーツ科学研究室長代理の森丘保典氏、仙台市立富沢小学校長の郡山孝幸氏、仙台大学講師山梨雅枝氏によるパネルディスカッションが行われ、パネリストそれぞれの立場から現在取り組んでいる活動の紹介がなされ、スポーツ基本法でも取り上げられている体力向上の取り組みへ向けた今後の課題や、子供たちの健やかな発達を促すための方策など、活発な議論が交わされました。



「子どもの体力低下について考える」をテーマに  
=せんだいメディアテーク

## ベトナム・ホーチミン市体育大学と国際交流会議を開催



調印式で固く握手を交わす朴澤学長（右）とニュエン副学長  
＝仙台大学

11月18日（月）、国際交流協定校の一つであるベトナムのホーチミン市体育大学（Hochiminh City University of Sport）からニュエン ヒェップ（Nguyen Hiep）副学長とファン ホォアン タン（Pham Hoang Tung）国際交流所所長が来学され、本学管理研究棟大会議室で、ホーチミン市体育大学と仙台大学における「国際交流会議」が開催されました。同会議には、本学から朴澤学長、阿部・若井両副学長、鎌田国際交流センター長ら10名が出席。主に、学部学生及び大学院生・教員間の交流について話し合いが行われました。

同会議終了後には、朴澤学長とニュエン副学長が「大学院に係る国際交流に関する協定書」に調印しました。

今後、仙台大学とホーチミン市体育大学における学部学生・教員間交流の活性化に向けた協定書の策定も予定しており、共同研究等のなお一層の進展が期待されています。

※ホーチミン市体育大学は1977年開学。ベトナムの南部に位置する。学部生5,200名、大学院修士課程200名・博士課程に20名が在籍。体育教育・体育管理・体育医学・トレーニングの4学科を有する体育専門大学である。



ファン所長、前列左から2番目

## 吉本興業と日本レクリエーション協会、仙台大学がニュースポーツ「スポーツテンカ」を共同開発



写真提供：日本レクリエーション協会

吉本興業ワッキー(右)の体験教室



ボールには大学のロゴ

仙台大学は、吉本興業の子育て応援プロジェクト「パパパーク!」、公益財団法人日本レクリエーション協会の2団体と共に、「スポーツテンカ」という名のニュースポーツを共同開発しました。それは、仙台大学在学中レクリエーション部主将であった私が、卒業後の現在もレクリエーション指導者養成・課程認定校関連等で一緒に仕事をさせていただいている仙台大学レクリエーション部・部長の仲野先生に話をもちかけたのが発端でした。

「スポーツテンカ」は、昔あそびである「テンカボール」をヒントに開発されました。ルールは2人で対戦し、先に5ポイントを得たら勝利となります。相手が投げたボールをキャッチする際の「技」により得点がもらえたり、相手に近づいて攻撃することができるので得点でき

るチャンスが高くなったりします。ルール自体は簡単で、ボールを使った全身運動ができ、子どもから大人まで一緒に楽しみながら思考力、判断力、チャレンジ力などを養うことができるスポーツです。

実施する際のボールについても、3団体で共同開発しました。実施対象に合わせてボールの大きさを変更できたり、3Dブロック模様により、ボールをしっかりと取りやすく、つきゆびしにくいという特徴のあるボールができあがりました。ボールには、仙台大学のロゴも刻まれています。

東京で6月に開催した体験会では、ワッキーと共に小学3年生～6年生の児童約50名が、スポーツテンカに挑戦。今後はオリンピック種目を目指し?全国の小学校を対象に普及活動、指導員の養成、実施に伴う心身への効果測定の共同研究などを行っていく予定です。スポーツテンカのルールの詳細は、

<http://sportstenka.com/> を参照ください。

スポーツテンカについての事業詳細は、仲野研究室へお問い合わせください。

＜寄稿：日本レクリエーション協会・  
公認指導者養成機関チーム

OB小山亮二（平成13年健康福祉学科卒）＞

## 仙台大学と青海省体育科学研究所との日中共同研究



ラットの給餌の準備を行なう杜氏(前)と蘇氏



ラットの給餌の様子

青海省は標高2200mに位置し、中国における高地研究の拠点である青海省体育科学研究所があります。本学は酸素濃度を任意に設定して、人工的に低酸素環境にすることが可能な低酸素実験室を有しており、青海省体育科学研究所と連携した日中共同研究において、高地(低酸素環境)を一般人の健康に生かす為の研究を行っています。

本年度はその青海省体育科学研究所から留学生として、蘇青青・杜霞両氏が本学大学院に入学しました。両氏は日中共同研究を目的として、本学の藤井久雄教授指導の下、低酸素室においてラットを飼育し、低酸素環境が生体に及ぼす影響について、特に青海省の位置する標高2200mだけではなく、それより高い標高3500mの複数の高度を設定した異なる濃度で研究しています。具体的には、蘇青青氏はラットの筋肉に着目し、異なる濃度の低酸素環境下で骨格筋線維タイプがどのように変化するかを明らかにします。杜霞氏はラットの血液性状に着目して、異なる濃度の低酸素環境下で、赤血球、ヘモグロビン等の酸素運搬に関わる成分がどのように変化するかを明らかにします。

現在は毎日午前中にラットの給餌、清掃、体重測定を行い、記録したデータを照らし合わせながら、正確な実験データを得られる様に努力するとともに、ラットの解剖、骨格筋、血液成分の分析、測定データの整理に奮闘中です。

今後は、日本での大学院生活の集大成として、修士論文を作成します。日中共同研究の成功、仙台大学と青海省体育科学研究所の友好の懸け橋として大いに期待されています。

### <動物低酸素実験室内の設備>



ラット用トレッドミル(全体)



ラット用トレッドミル(真上)



動物低酸素制御システム



動物環境制御低酸素システム, Gas分析システム



ラットゲージ



動物低酸素実験室の制御室

## 平成25年「秋の叙勲」を佐伯洋昌元仙台大学教授が受章



写真提供：教職支援室・石川健先生

佐伯先生(前列中央)のご叙勲を喜ぶ教職支援室の皆さん  
＝仙台大学教職支援室

2013年秋の叙勲受章者が11月3日付けで発表され、佐伯洋昌元仙台大学教授が「瑞宝双光章」を受章しました。佐伯元仙台大学教授は、教育現場や行政に37年間携わられ、宮城県内の小学校・中学校の校長を歴任。宮城県中学校長会会長も務められました。退職後には、本学の教授として10年間、教員を目指す学生たちに指導されました。

### <佐伯洋昌元仙台大学教授が朴澤学長へ出された手紙>

謹 啓

菊花の候 皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます  
さて私こと

平成25年秋の叙勲に際し はからずも瑞宝双光章受章の榮に 浴  
しましたところ 早速ご懇篤なるご祝意を頂戴いたしまして 誠  
に有難く厚く御礼申し上げます

去る11月11日 国立劇場で勲記・勲章の伝達を受け 引き続き  
皇居にて家内共々拝謁の榮を賜わることができました

これも偏に 長年に亘って皆様より頂きましたご指導ご厚情の  
賜と深く感謝申し上げます

今後は一層精進し いささかなりともご芳情に報いたいと思  
いますので ご指導を賜りますようお願い申し上げます

末筆ながら ご尊家様のご多幸とご健勝を祈念し御礼のご挨拶  
とさせていただきます

あかとうごさいして

敬 白

佐伯洋昌

平成25年11月吉日

## 女子サッカー部、皇后杯へ—2年ぶり2度目の本戦出場を決める



皇后杯への本戦出場を決めた仙台大学女子サッカー部  
=仙台大学サッカー・ラグビー場

10月12日（土）～13日（日）の2日間、宮城県サッカー場で「第35回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会東北地域大会」が開催されました。

女子サッカーの日本一を決める皇后杯（全日本女子サッカー選手権大会）出場の東北第一代表は、常盤木学

園高校、第二代表はJFAアカデミー福島に決定しており、最後の東北第三代表をかけた一戦、仙台大学女子サッカー部は、3-2で聖和学園高校を破り、見事第三代表として、2年ぶり2度目の本戦出場への切符を手に入れました。

10月31日（木）に皇后杯の組合せ抽選が行なわれ、本学女子サッカー部は11月23日（土・祝）に早稲田大学との対戦（試合会場：テクノポート福井スタジアム（福井県坂井市）、試合開始予定時間：11時）が決まりました。

本学女子サッカー部の黒澤監督は、「早稲田大学は大学女子サッカー界の強豪校。相手にとって不足はない」と話し、「自陣に引いて守るのではなく、勇気を持ってボールを動かし、自分たちから攻撃を仕掛けていく。勝つための準備をしっかりとやりたい」と闘志を燃やしました。

## 男子サッカー部、東北地区大学サッカーリーグ全勝優勝—13年連続30回目の全国大会出場へ



西村が豪快にミドルシュートを決める  
=宮城県サッカー場

11月2日（土）、宮城県サッカー場（利府町）で「第38回東北地区大学サッカーリーグ第9節（最終節）」が行なわれ、仙台大学男子サッカー部は、富士大学と対戦しました。

にしむらこうじ

仙台大学は、後半、FW西村光司（体育学科4年—ベガルタ仙台ユース出）が豪快にミドルシュートを決め、1-0（前半0-0、後半1-0）で富士大学を破り、貫録の全勝（9勝0敗）優勝を果たしました。これで、本学男子サッカー部は、13年連続30回目の全国大会（第62回全日本大学サッカー選手権大会）出場への切符を手にしました。

富士大学戦では、男子サッカー部員全員が応援に駆け付け、大声援を送り、まさに、チーム一丸となって掴み取った「優勝」となりました。

本学男子サッカー部に吉井監督が就任してから、東北地区大学サッカーリーグで4年間負けなし。吉井監督は試合終了後、「手堅い試合運びで危なげなく勝つことができた。応援の力も大きかった。チームの一体感が感じられた」と話し、「全国大会では初戦を突破し、勢いに乗りたい。上位進出を目指す」と語りました。

全国大会は、12月14日（土）～味の素スタジアム西競技場（東京都調布市）等で開催される予定です。引き続き、仙台大学男子サッカー部への熱い応援を宜しくお願いします。

## 女子バスケットボール部、東北男女総合バスケットボール選手権 —5位決定戦でLEGENDS IWATE下す



後藤が難しいコースから3点シュートを決める  
＝山形北高校体育館

11月9日(土)・10日(日)の2日間、山形県体育館や山形北高校体育館等で「東北男女総合バスケットボール選手権」が行なわれました。

初戦の対戦相手である青森中央学院大学(青森県第二代表)を94-70で下し、宮城県第一代表の本学女子バスケットボール部は、準々決勝に進出。準々決勝の対戦相手は、富士大学(岩手県第一代表)で、仙台大学は終盤追い上げを見せますが、67-79で敗れ、5位決定戦にまわりました。

5位決定戦初戦の対戦相手は、湯沢翔北高校(秋田県第一代表)で、仙台大学は終始リードし、69-56で勝利を収めました。5位決定戦決勝の対戦相手は、LEGENDS IWATE(岩手県第二代表)。仙台大学は序盤こそ相手に押される展開となりましたが、第2クォーターで逆転。

せやちひろ  
瀬谷千尋(体育学科4年一福島・郡山東高校出)・  
ごとうまりあ  
後藤万里亜(体育学科4年一岩手・一関学院高校出)ら、今大会が大学生活最後の大会となる4年生の活躍で、81-64で勝利。5位で東北総合選手権を終えました。

同選手権終了後、本学女子バスケットボール部の菅野恵子コーチは、「富士大学戦では、相手の得点に直接つながるミスが多かった。基礎基本の見直しを図り、組織力及び競技力を強化していきたい」と今後の抱負を話しました。

## 女子サッカー部、皇后杯初戦敗退—関東の大学王者・早稲田大学に屈する



スピード感あふれるドリブルで攻め上がるMF越河(左)  
＝テクノポート福井スタジアム

11月23日(土・祝)、テクノポート福井スタジアム(福井県坂井市)で「皇后杯第35回全日本女子サッカー選手権大会」1回戦が行なわれ、仙台大学女子サッカー部は、関東の大学王者・早稲田大学と対戦しました。

仙台大学は、序盤から早稲田大学のスピードとパワーに翻弄され、苦しい立ち上がりとなりました。前半10分にセットプレーから先制点を奪われ、0-1。その後も早稲田大学の攻撃が続きましたが、

えんどうほなみ

GK遠藤穂奈美(体育学科4年一宮城・東北高校出)が体を張って決定的なピンチを何度も凌ぎ、0-1で前半を折り返しました。

後半に入っても展開は変わらず、早稲田大学ペースで試合が進みました。後半開始2分に2点目・後半34分にオウンゴールで1点を追加され、0-3。仙台大

学は後半、ユニバーシアード日本代表のMF加賀孝子(スポーツ情報マスメディア学科2年一ジェフユナイ

かがこうこ  
テッド千葉レディース出)が起点となり、MF越河なつみ(運動栄養学科1年一宮城・明成高校出)が鋭いドリブル突破から右クロスを上げるなどの形を作りました。しかし、得点を奪えず、最後まで粘り強くボールを追いかけた仙台大学イレブンでしたが、結果0-3で完敗を喫しました。

12月25日(水)～全日本大学女子サッカー選手権が兵庫県三木総合防災公園で行なわれ、仙台大学女子サッカー部(東北1位)は、1回戦で姫路獨協大学(関西3位)と対戦することが決まりました。1回戦に勝利すれば、シード校の早稲田大学(関東1位)との再戦になります。

リベンジに燃える、仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

## 男子卓球部、「第19回はねっこアリーナ卓球大会」団体優勝 —中国からの留学生、劉俊希の活躍光る



練習に励む劉=仙台大学第一体育館



団体優勝を果たし、喜ぶ仙台大学男子卓球部の選手たち  
=はねっこアリーナ大河原町総合体育館

10月13日（日）、はねっこアリーナ大河原町総合体育館で「第19回はねっこアリーナ卓球大会」が行なわれました。硬式男子の部では、本学男子卓球部が見事団体優勝を飾りました。

団体優勝の立役者となった中国からの留学生劉<sup>りゅうじゅん</sup>俊希（大学院1年—瀋陽師範大学出）は、8歳から卓球をはじめた、元中国のプロ卓球選手。劉は予選から決勝までの7戦を全て勝利し、団体優勝に大きく貢献をしました。

劉は現在、本学卓球部に所属し、日々練習を重ねています。チームメイトである本学卓球部の根本拓斗<sup>ねもとたくと</sup>（体育学科2年—茨城・下妻第一高校出）は、「劉さんの活躍なしに今回の団体優勝はなかったと思います。劉さんのお陰で、チームが一つにまとまっている手応えを感じました。劉さんの技術力やプロ意識は良い影響を与えてくれています」と話し、劉は「仙台大学卓球部の永田先生と馬先生の温かいご支援に感謝しています。今回の優勝は、部員たちが毎日コツコツと練習をしている努力の結果。みんなやる気はあるので、あとは経験を積むことが大切。東北学生卓球リーグの1部に昇格できるよう応援していきたいです」と謙虚に語りました。

競技力向上においても、国際交流の成果が表れています。

## 第59回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会、壹岐優が77kg級制す —松下康弘は94kg級2連覇を達成



練習に取り組む壹岐(前)と松下=仙台大学第三体育館

11月17日（日）に宮城県柴田高校で行なわれた「第59回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会」

<sup>いきまさる</sup>で、本学ウェイトリフティング部コーチの壹岐優（大学院1年—金沢学院大卒—宮城・柴田高校出）がスナッチ93kg・ジャーク120kg・トータル213kgで、成年男子77kg級を制しました。

また、本学ウェイトリフティング部副主将の<sup>まつしたやすあき</sup>松下康亮（現代武道学科3年—宮城・柴田高校出）がスナッチ95kg・ジャーク120kg・トータル215kgで、成年男子94kg級2連覇を達成しました。

壹岐は「自己ベストを更新できなかったことは残念だが、スナッチとジャーク合わせて6本全て成功できたことには満足している。大学院とウェイトリフティングとの両立の難しさを痛感している。練習時間を確保し、体力トレーニングと技術練習を効率よく組み入れていきたい」。松下は「高校時代に痛めていた、両ひざ半月板損傷による痛みが出てきて、思うように練習ができていない。この冬は、基礎体力を鍛えて、自己ベスト更新ができるように頑張りたい」とそれぞれ今後の抱負を力強く語りました。

なお、壹岐は来年2月に行なわれる全日本ウェイトリフティング連盟・米国遠征研修合宿（2月10日～3月4日）に、コーチとして帯同する予定です。



## 男子バレーボール部、「第66回全日本大学選手権大会」活躍誓う



練習でスパイクを放つ西村主将＝仙台大学第二体育館

バレーボールの第66回全日本大学選手権大会が12月3日（火）から始まります。大田区総合体育館（東京都）を主会場に123大学が出場。

本学男子バレーボール部は、予選リーグで大阪体育大学・平成国際大学と対戦。

今年の東日本インカレ（6月）では、チーム史上初となるベスト8に入り、チームの大きな自信となりました。

仙台大学男子バレーボール部は、セッター  
やまぐちたくや山口拓也（体育学科4年―青森・弘前工業高校出）

を軸に、西村優輝主将（体育学科4年―青森・弘前  
にしむらゆうき工業高校出）と山岸良（体育学科4年―青森・弘前  
やまざしりょう工業高校出）のコンビプレイを駆使した攻撃が

持ち味。さらに2年生エースの笹原丈寛（体育学科  
ささはらたけひろ2年―日大山形高校出）が、豪快なスパイクを放ち、得点を挙げていきます。

西村主将は「今年の仙台大学は、元気のあるチーム。初戦に勝って勢いに乗りたい。4年間の集大成となるような結果を残したい」と闘志を燃やし、大学生活最後の全日本大学選手権（インカレ）での活躍を誓いました。

仙台大学男子バレーボール部への熱い応援を宜しくお願い致します。